内部被ばく通信

第４号
2016 年11 月 6 日（日）
発行　内部被ばくを考える市民研究会
E-mail　entry.naibu@gmail.com
カンパ　100 円

原発事故から５年半　続く食品の放射能汚染（１）きのこ編

厚生労働省の食品中の放射性物質の検査結果から　川根眞也

日本の食品の放射能汚染の現状はどうなっているのでしょうか？厚生労働省は、全国 47 都道府県の自治体が行っている食品の放射性物質検査を月別にまとめて公表しています。月別の検査結果を見ると、2 万~3 万もの検査数がありますが、ほとんどが「不検出」です。それは検出限界が 20 ベクレル／kg や 50 ベクレル／kg という高い数値に設定されているからです。

月	検査数	検出データ数
2015 年 10 月	28,298	923
2015 年 11 月	35,816	900
2015 年 12 月	35,460	741
2016 年 1 月	16,552	219
2016 年 2 月	31,613	365
2016 年 3 月	24,129	375
2016 年 4 月	26,214	882
2016 年 5 月	27,652	1,174
2016 年 6 月	27,271	722
2016 年 7 月	23,733	484
2016 年 8 月	29,937	447
2016 年 9 月	22,439	423

しかし、その中でも、月別でも 200～1,100 件の検出データがあります。

厚生労働省が発表した、32 万 9114 件の検査結果のうち、放射性物質（セシウム 134、セシウム 137）が検出された食品 7,655 件を、品目別、産地別（都道府県、市町村、河川名など）に分類一覧にしました。最後のページに QR コードがつけておきました。ご活用下さい。

厚生労働省　食品　放射能汚染データ　2015 年 10 月～2016 年 9 月　検出食品　ジャンルごと きのこのみ版　冊子用　73 ページ
https://drive.google.com/file/d/0B2j_g9u0phptdF9YRnJNX3RIQTQ/view?usp=sharing

厚生労働省　食品　放射能汚染データ　2015 年 10 月～2016 年 9 月　検出食品　ジャンルごと きのこなし版　冊子用　214 ページ
https://drive.google.com/file/d/0B2j_g9u0phpteDZlckROeUlGRTg/view?usp=sharing

４号の内容

原発事故から５年半　続く食品の放射能汚染（１）きのこ編　pp.1～7
厚生労働省の食品中の放射性物質の検査結果から　川根眞也

野生きのこの放射能汚染最高値は、福島県ではなく長野県

改めてデータを整理してみると、きのこのうち野生きのこの放射能汚染が一番ひどいです。中でも福島県や宮城県の野生きのこのデータ数がそもそも少なく、長野県、山梨県、栃木県、静岡県などの野生きのこばかりです。

その中でも、野生きのこで最高値は長野県佐久市の山林のチャナメツムタケ　放射性セシウム合計　910 ベクレル／kg、2015 年 10 月（きのこ編 pp.60）。他にも、茨城県内で流通したサクラシメジ 720 ベクレル／kg、2015 年 10 月（きのこ編 pp.5）。山梨県鳴沢村,富士吉田市のショウゲンジ 590 ベクレル／kg 、560 ベクレル／kg、2015 年 10 月（きのこ編　pp.59）です。鳴沢村と富士吉田市は、以下の地図からも分かるように、富士山の北側に位置します。すでに、2012 年 12 月 13 日、森住卓氏がブログで「富士山からとってきた　きのこ食べないでください。」と呼びかけていました。

富士山からとってきた　きのこ食べないでください。
警告!!富士山のきのこ　食べないでください。富士山東部小富士付近で採取（９月下旬から１０月初旬）したきのこにセシウム 137 が 188Bq/Kg とセシウム 134 が 100Bq/Kg　合計 288Bq/Kg 検出されました。食べないようにしましょう。うどんのつゆに入れたらに最高のだしが出るんですが残念。パスタに入れてもうまいのに。悔しい。うまいからって食べないようにね。
あなたの健康と未来の子供たちのために。

この 2012 年のときよりも、富士山麓のきのこの放射能汚染は深刻化している、と思います。

以下の地図、赤枠の囲みが鳴沢村、富士吉田市。

下のグラフは、セシウム 134 の半減期とセシウム 137 の半減期、そして合計の放射性セシウムの半減期から、今後どのようにセシウムが減っていくのかを表したグラフです。放射性セシウム合計では、原発事故から 5 年後には当初の 55%くらいに、10 年後では当初の 40%くらいに、20 年後には当初の 30%くらいになるはずです。

しかし、これは放射性セシウムが、机の上などに置いてある場合のことであって、自然の中、森の中にある場合はまったくようすが違います。きのこは森林の土壌の表層にある放射性物質を濃縮し、また、マツやヒノキなどの樹木と共生関係にあるため、放射性セシウムを樹木に与えます。その樹木が自分のからに放射性セシウムを蓄積すると同時に落葉・落枝によってまた、きのこに放射性セシウムをお返しします。このようにして、森林では、きのこを媒介して、放射性セシウムがぐるぐると循環するのです。

富士山麓のきのこの放射能汚染はセシウム 137 の半減期である 30 年たっても半分にならないでしょう。それどころか、更に濃縮されて何万ベクレル／ｋｇのきのこができる危険性すらあります。

今年 2016 年はチェルノブイリ原発事故から 30 年目。チェルノブイリから西へ 1100km 離れたオーストリアの森で、政府がイノシシを検査したところ、4711 ベクレル／kg のイノシシ肉が発見されています。イノシシはきのこが大好物です。

オーストリア 汚染調査

イノシシ肉 基準7倍超

西1100キロ 影響続く

【ウィーン＝共同】オーストリア保健・食品安全局は二十五日までに、チェルノブイリ原発事故から三十年を機に同国の森などで植物、土壌などの調査を行い、イノシシ肉から最大で一キロ当たり四七一二ベクレルの放射性セシウム137を検出したと発表した。オーストリアの食品基準値の七倍超に上った。

イノシシ肉二十九検体のうち全体の七割近い二十六検体で基準値を超えた。当局は「今なお事故のセシウムが土壌に残り、森の生態系に影響を与えていることが示された」と説明している。セシウム137の半減期は約三十年。

同局は一方で、セシウム値が最も高いイノシシ肉を一年間に約二・五キロ食べても、年間の被ばく線量は〇・一五ミリシーベルトで、オーストリアでの食べ物を通じた自然被ばく線量の半分程度としている。

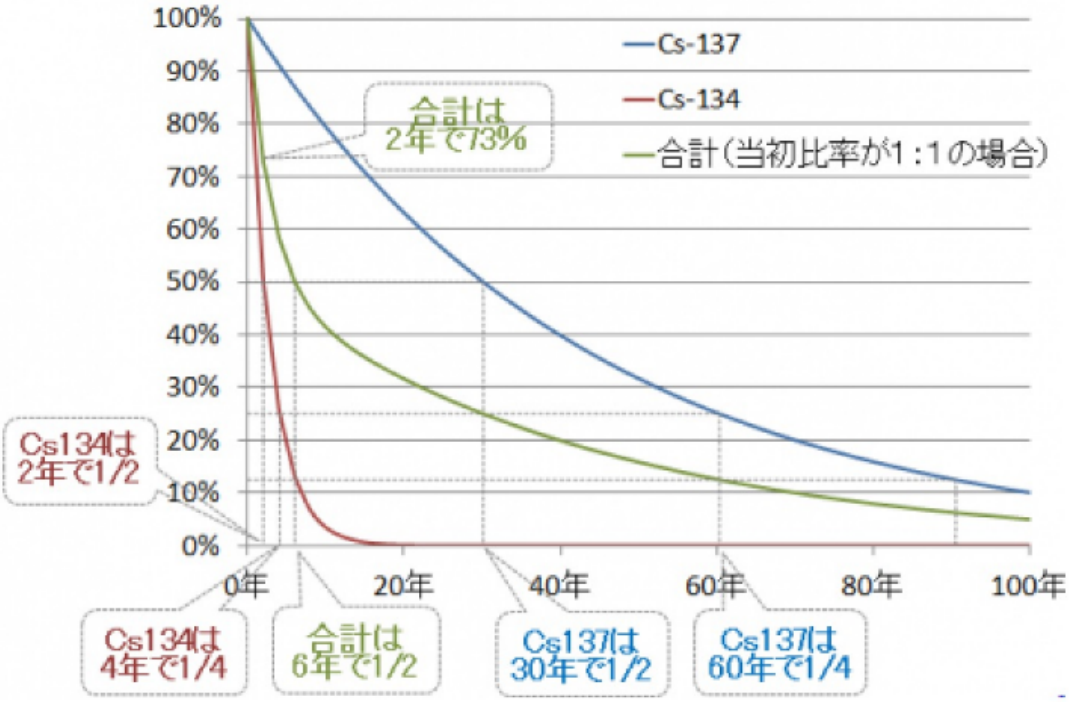
日本では肉など一般食品の放射性セシウムの基準値は一キロ当たり一〇〇ベクレルと定めている。

保健・食品安全局は生態系への影響を調べるため昨年夏にオーストリアの森やドイツ南部などでイノシシ肉や植物、土壌を検査。イノシシ肉で最も高い数値を示したのは、チェルノブイリから千百キロ以上離れたオーストリア北東部ニーダーエスタライヒ州の森の検体だった。一方、キノコやコケモモはそれぞれ一検体がわずかに基準値を上回っただけだった。

検査では土壌の表層にセシウムが残存していることが判明。イノシシは森の中で食物連鎖の上位にいるため放射性物質が蓄積されるとみられる。

イノシシ肉の検査で1kg当たり4711ベクレルの放射性セシウムを検出した森
チェルノブイリ原発
ドイツ
ウクライナ
キエフ
ウィーン
オーストリア
黒海
イタリア
300km

2016年4月27日　東京新聞　朝刊　2面



【出典】ブログ　ポストさんてん日記　核分裂、放射線、ベクレル(Bq)とシーベルト(Sv)、人体への影響
2013年3月11日

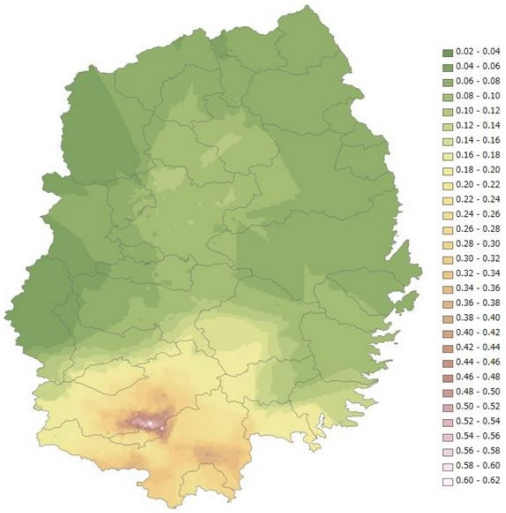
【編集】川根 眞也

岩手　山田町のマツタケ　84 ベクレル／kg、長野　小海町のマツタケ　89 ベクレル／kg

岩手県　山田町のマツタケは放射性セシウム合計　84 ベクレル／kg、2016 年 9 月です（きのこ編　pp.70）。長野県　小海町のマツタケは放射性セシウム合計　89 ベクレル／kg、2015 年 10 月です（きのこ編　pp.70）。なにも福島県だけのきのこを気をつければいいのではないことがこのページ、pp.70 を読むだけでわかると思います。山梨県富士河口湖町のマツタケは 38（2015 年 10 月）、富士吉田市のマツタケも 38（2015 年 10 月）、北杜市のマツタケは 13（2016 年 8 月）、鳴沢村のマツタケは 46（2016 年 9 月）、長野県佐久市のマツタケは 13（2015 年 10 月）、小諸市のマツタケは 19（2016 年 9 月）、です。

野生きのこの汚染は森林の汚染を反映していると考えるべきです。

終わらない岩手県の放射能汚染



岩手県の空間放射線量率（9月9日現在の土壌表面，μSv/h）
2011年6月1日～9月9日測定データを9月9日現在の値に減衰補正して作成
作成日 2011年9月16日

【作成】岩手大学農学部農学生命課程農畜産環境保全学分野
【編集】川根 眞也

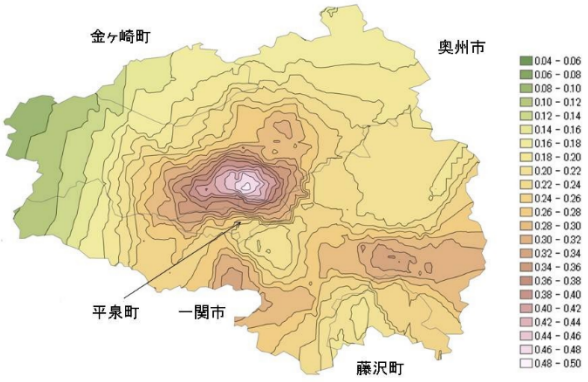
岩手県農学部が調査した、放射能汚染マップ（空間線量率　2011 年 9 月 9 日）に示すように、岩手県南部には、千葉県柏市に匹敵するホット・スポットがあります。

原木しいたけの放射能汚染を調べてみると（きのこ編　pp.8～50）、おどろくほど岩手県産のデータが少ないことに気がつきました。理由は簡単。原発事故から 5 年たっても 100 ベクレル／kg を超える放射性セシウムが出るために、出荷制限がかけられていました。また、生産・販売が許可されているのは、地域ですらなく、個々の生産者を対象とした措置がとられています。

平泉町は全面的に出荷制限。一関市は 16 生産者のみ、奥州市は 3 生産者のみ、釜ヶ崎市は 2 生産者のみ、が生産・販売を認められています。原木きのこ栽培管理 チェックシートを生産者が作り、岩手県農林水産部　林業振興課がチェックして安全が確認されたもの（つまり 100 ベクレル／kg 以下）だけを出荷する、という手法がとられています。原木の放射性セシウムは 50 ベクレル／kg までとされています。

出典：岩手県　露地栽培原木しいたけの出荷制限及び一部解除の状況について（平成 28 年 9 月 12 日現在）
http://www.pref.iwate.jp/ringyou/tokuyourinsan/029424.html

岩手県南部の放射能汚染は深刻です。



県南5市町の放射線量分布（地上50cm，μSv/h）
2011年7月13日までの県および市町による測定結果をもとに作成

【作成】岩手大学農学部農学生命課程農畜産環境保全学分野
【編集】川根 眞也

岩手県一関市の原木シイタケ　放射性セシウム18ベクレル／kg、2016年3月（きのこ編pp.42）、岩手県遠野市の原木シイタケ　放射性セシウム48ベクレル／kg、2016年8月（きのこ編pp.42）、岩手県花巻市の原木シイタケ　放射性セシウム43ベクレル／kg、2016年8月（きのこ編pp.42）、岩手県山田町の原木シイタケ　放射性セシウム50ベクレル／kg、2016年8月（きのこ編pp.43）、岩手県大船渡市の原木シイタケ　放射性セシウム36ベクレル／kg、2016年2月（きのこ編pp.43）、岩手県北上市の原木シイタケ　放射性セシウム38ベクレル／kg、2016年8月（きのこ編pp.43）、岩手県陸前高田市の原木シイタケ　放射性セシウム31ベクレル／kg、2016年4月（きのこ編pp.43）。

岩手県の被災地は津波だけではなく、放射能汚染の被害もあるのです。

宮城県の放射能汚染は？

宮城県加美町の原木シイタケ　放射性セシウム22ベクレル／kg、2016年9月（きのこ編pp.45）、宮城県仙台市の原木シイタケ　放射性セシウム21ベクレル／kg、2016年9月（きのこ編pp.46）、宮城県大崎市の原木シイタケ　放射性セシウム12ベクレル／kg、2016年6月（きのこ編pp.46）、宮城県大和町の原木シイタケ　放射性セシウム53ベクレル／kg、2016年9月（きのこ編pp.46）、宮城県登米市の原木シイタケ　放射性セシウム26ベクレル／kg、2016年9月（きのこ編pp.46）。

宮城県もまた、津波だけではなく、放射能汚染の被害もあります。

千葉県もまた原木栽培・露地栽培シイタケの出荷制限、継続中

千葉県もある特定の地域の原木栽培シイタケのデータしかありません。調べてみると、やはり千葉県では、以下の地域が原木栽培・露地栽培シイタケが出荷制限中です。

千葉県産しいたけの出荷制限・自粛 17市町

2016年9月7日現在

市町村名	品目	期間（開始月）
千葉市	原木・露地	2012年4月
八千代市	原木・露地	2012年4月
流山市	原木・露地	2011年11月
我孫子市	原木・露地	2011年10月
	たけのこ	2012年4月
	原木・露地	2013年1月（2016年8月一部解除）
佐倉市	原木・露地	2011年12月（2014年10月一部解除）
印西市	原木・露地	2012年2月（2016年1月一部解除）
白井市	原木・露地	2012年4月
香取市	原木・露地（1戸）	2012年3月
山武市	原木・露地	2012年5月（2014年3月一部解除）
	原木・施設	2012年5月（2014年3月一部解除）
大網白里市	原木・露地（1戸）	2012年3月

睦沢町	原木・露地（1 戸）	2012 年 3 月
長柄町	原木・露地（1 戸）	2012 年 3 月
いすみ市	原木・露地（1 戸）	2012 年 3 月
木更津市	原木・露地（3 戸）	2012 年 3 月
君津市	原木・露地	2011 年 10 月（2014 年 10 月一部解除）
	原木・施設	2012 年 12 月（2014 年 10 月一部解除）
富津市	原木・露地	2012 年 11 月（2914 年 10 月一部解除）
	原木・施設	2012 年 11 月（2014 年 11 月一部解除）
17 市町		

出荷されている千葉県の原木シイタケの放射能汚染の現状は

千葉県柏市の原木シイタケ　放射性セシウム 1.8 ベクレル／kg、2016 年 9 月（きのこ編 pp.49）、千葉県君津市の原木シイタケ　放射性セシウム 42 ベクレル／kg、2016 年 9 月（きのこ編 pp.49）、千葉県富津市の原木シイタケ　放射性セシウム 39 ベクレル／kg、2016 年 8 月（きのこ編 pp.49）、千葉県長柄町の原木シイタケ　放射性セシウム 6.6 ベクレル／kg、2016 年 9 月（きのこ編 pp.49）。

栃木県日光市も放射能汚染

原木シイタケ 40 ベクレル／kg

栃木県日光市もまた高い放射能汚染がある地域です。栃木県内では唯一、地域として原木シイタケの出荷制限（一部解除）が行われています。

また、栃木県も生産者ごとに、原木栽培シイタケの生産・出荷制限が解除されています。逆に言うと、一部の生産者以外は、生産・出荷が制限されている現状が今も続いている、ということです。

原木栽培シイタケの生産・出荷が認められている生産者数　2016 年 8 月 29 日現在

【露地栽培】

芳賀町　4 生産者

那珂川町　4 生産者

日光市　6 生産者

茂木町　8 生産者

大田原市　4 生産者

宇都宮市　10 生産者

栃木市　3 生産者

那須烏山市　4 生産者（1 生産者　自粛解除）

佐野市　2 生産者（1 生産者　自粛解除）

鹿沼市　8 生産者

さくら市　1 生産者

益子町　1 生産者

【施設栽培】

矢板市　2 生産者

鹿沼市　11 生産者

さくら市　2 生産者

芳賀町　2 生産者

日光市　4 生産者

那須塩原市　6 生産者

那珂川町　6 生産者（自粛の解除）

大田原市　4 生産者

壬生町　1 生産者

那須町　3 生産者

出荷されている栃木県の原木シイタケの放射能汚染の現状は

栃木県足柄市の原木シイタケ　放射性セシウム 6.4 ベクレル／kg、2016 年 6 月（きのこ編 pp.48）、
栃木県宇都宮市の原木シイタケ　放射性セシウム 27 ベクレル／kg、2016 年 9 月（きのこ編 pp.48）、
栃木県大田原市の原木シイタケ　放射性セシウム 5.5 ベクレル／kg、2016 年 8 月（きのこ編 pp.48）、
栃木県佐野市の原木シイタケ　放射性セシウム 17 ベクレル／kg、2016 年 6 月（きのこ編 pp.49）、
栃木県日光市の原木シイタケ　放射性セシウム 40 ベクレル／kg、2016 年 8 月（きのこ編 pp.49）、
栃木県野木町の原木シイタケ　放射性セシウム 54 ベクレル／kg、2016 年 6 月（きのこ編 pp.49）

日光市の野菜も放射能汚染されているのでは？

改めて、栃木県日光市の野菜のデータだけをピック・アップしてみました。
キクイモ　露地栽培　放射性セシウム 6.6 ベクレル／kg、2015 年 12 月（きのこなし編 pp.98）、
サンショウ　露地栽培　放射性セシウム　8.5 ベクレル／kg、2016 年 5 月（きのこなし編 pp.101）、
シソ　露地栽培　放射性セシウム 7 ベクレル／kg、2016 年 6 月（きのこなし編 pp.101）、
ノビル　露地栽培　放射性セシウム 7 ベクレル／kg、2015 年 11 月（きのこなし編 pp.132）、
ミョウガ　花穂　露地栽培　放射性セシウム 7.7 ベクレル／kg、2016 年 7 月（きのこなし編 pp.133）。

奇妙なことに放射能汚染のレベルが 7 ベクレル／kg 前後と共通していることがわかります。栃木県日光市で観光に行き、地取り野菜ときのこのソテーなどをいただくと、放射性セシウム　6 ベクレル／kg 前後のものを摂取することになるのではないか、と危惧されます。

きのこ以外の食品の放射能汚染の現状は次号で報告します。

厚生労働省の食品中の放射性物質の検査結果から 2015 年 10 月～2016 年 9 月
資料作成：川根眞也
ダウンロード・アドレスと QR コード

厚生労働省　食品　放射能汚染データ　2015 年 10 月～2016 年 9 月　検出食品　ジャンルごときのこのみ版　冊子用　73 ページ　2016 年 10 月 27 日改訂版
https://drive.google.com/file/d/0B2j_g9u0phptdF9YRnJNX3RIQTQ/view?usp=sharing

厚生労働省　食品　放射能汚染データ　2015 年 10 月～2016 年 9 月　検出食品　ジャンルごときのこなし版　冊子用　214 ページ　2016 年 10 月 27 日改訂版
https://drive.google.com/file/d/0B2j_g9u0phpteDZlckR0eUlGRTg/view?usp=sharing